エッセイ

SDGs は誰のため？

――シエラレオネで考えた――

井上　直美

筆者

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）が目指す、国際社会が一体となって実現に取り組む「誰1人取り残さない」（No one will be left behind）社会の「誰1人」とはどのような人なのでしょう。私は少し遅い夏休みを取って訪問したシエラレオネで考えてみました。

シエラレオネはアフリカ西部の大西洋に面する国で、世界の中で最も厳しい貧困状況にある国の1つに数えられます。2018年に発表された2016年時点の出生時平均寿命は183カ国中181位の53.1歳（WHO）、人間開発指数（HDI）は189カ国中184位、1人当たりの国民総所得（GNI）は189カ国中180位の1240米ドル（UNDP）でした。

1991年から2002年まで続いた内戦は、7万5000人以上の死者を出し、2014年にはエボラ出血熱の感染によって多くの国民が犠牲となり、社会・経済システムが大きな損害を受けました。長年続いた内戦のために国のインフラは整っておらず、水道の約85％に異物混入があると言われています。

写真1　地滑りが発生したMount. Sugar Loaf（2018年、筆者撮影）

●災害脆弱性が高いシエラレオネ

シエラレオネは災害に対する脆弱性が非常に高い国です。同国は自然災害が多く、行政や医療サービスは行き届いておらず、教育や環境保護の水準は低く、災害時の対応や予防・適応能力が十分ではないため、災害のダメージを受けやすい状況にあります。

首都フリータウン郊外のリージェント地区では、2017年8月に大規模な地滑りが起きました。山の傾斜に沿って建てられた木造の民家が密集する斜面で起きた地滑りによって、1000人以上の死者・行方不明者が発生し、4000人以上の住民が避難を余儀なくされ、多くの住民が被災民キャンプへ移り住みました（写真1）。

●取り残された人々

筆者は被災民の生活の様子を知るために、2015年9月に発生した豪雨による洪水の被災者が暮らすMile 6、Koya Rural地区の被災民キャンプを訪ねました（写真2）。キャンプには約120世帯、750人が電気や水道のない生活を送っています。井戸の浄水設備は、

写真 2　被災民キャンプ内の井戸周辺の様子（2018 年、筆者撮影）

写真 3　Aminata さんが一家 8 人で暮らす広さ約 8 畳の部屋（2018 年、筆者撮影）

国際移住機関（IOM）が日本の支援を受けて配置しました。

一家 8 人で被災民キャンプに暮らす家族のお母さんの Aminata Turay さんは「被災から 3 年経っても元の場所に戻れない」、「仕事はなく生活がとてもに苦しい」と現状を話しました。彼女は一家 8 人が暮らす床にビニールシートがひかれたトタン屋根の家の中を案内してくれました（写真 3）。

被害は、社会・経済・環境的な原因によって引き起こされたものです。豪雨による地滑りのきっかけは、密集した都市部からあふれ出た人々が安価な住処を求めて斜面や川岸に家を建て始めたことでした。彼らは防災の知識を持たないまま、斜面の木を伐りトタン屋根の家を建てました。生活に必要な薪を確保するためにまた伐採し、過度の森林伐採が土壌の浸食を悪化させました。そして山は豪雨に耐えられなくなり、地滑りが起きたのです。

なぜ彼らは斜面に住まなければならなかったのでしょうか。何も好んで斜面を選んだわけではなく、彼らは社会的・経済的に脆弱な立場にあるために、そこに住まざるを得ず、環境変動の影響を受け、災害に遭ったのです。

●誰のための SDGs か

SDGs は、持続可能な開発には貧困の撲滅が不可欠であり、この解決は世界にとって最も困難な挑戦であるという考えに基づいています。これは 2000 年に始まったミレニアム開発目標（MDGs）の後継として生まれました。MDGs の下に途上国の経済成長によって貧困削減は一定の成果をもたらしました。一方でその恩恵を受けられずに取り残された人々が多く存在するとの反省に立ち、SDGs はこれまでのやり方に変革を求めています。

すべての人々の人権を実現し、ジェンダーの平等とすべての女性と少女のエンパワーメントを達成することを通じて、誰も取り残されない世界を作ろうとするのが、SDGs の 17 のゴールと 169 のターゲットです。

被災民キャンプで生活する人々を取り残さずに持続可能な開発を行うためには、社会、経済、環境の 3 つからのアプローチが必要です。そのために SDGs の 17 のゴールは、それぞれに相互関係があり、切り離すことができないものなのです。

私は、SDGs は誰のためなのかを思い起こし、自分の今までのやり方をどのように変えれば Aminata さん家族を取り残さない社会を作ることに繋がるのかを見つけようという想いを胸に、シエラレオネを後にしました。

（いのうえ　なおみ／アジア経済研究所　開発研究センター）

写真 4　財務・経済開発省に掲げられた SDGs パネル（2018 年、筆者撮影）